

さとうきびが砂糖をつくるしくみ

さとうきびは、光のエネルギーを使って二酸化炭素と水を原料に砂糖をつくり、茎にたくわえます

植物は、空気中の二酸化炭素と根からすい上げた水を原料に、光のエネルギーを利用して、葉で酸素と炭水化物（養分）をつくります。さとうきびの場合は、養分として砂糖がつくられ、茎にたくわえられます。

砂糖を多くたくわえる植物は、さとうきびのほか、てんさい（砂糖大根、ビート）などがあります。

さとうきびってどんな植物？



イネ科の植物で、砂糖の原料です。熱帯・亜熱帯の地域でよく育ち、日本では沖縄県、鹿児島県の南西諸島で栽培されています。成長すると、茎の太さは3～5cmに、背丈は2～3mになります。

